

種なしピーマンの生産安定支援

農業技術センター普及指導部

実施期間：令和4年～6年

課題・目的

■トマトの市場価格低迷の対策として令和2年から平塚市、大磯町及び伊勢原市で種なしピーマンの施設栽培が行われている。今後は、当地域にあった作型や生産安定技術の普及が必要である。

■JA湘南、横浜植木(株)及び生産技術部と連携して、作型及び仕立て方等の検討を行い、安定生産および生産拡大を目指す。

活動内容

■他産地の半促成(長期)栽培を参考に生産技術の検討を行い、8月切り戻し9～11月に再度収穫を行う栽培技術を普及した。(令和4年度に1戸、5年度は3戸、令和6年度は生育状況により2戸)栽培技術の定着と安定生産を図るため、JA湘南や横浜植木(株)と毎月ほ場を巡回して、仕立て方等の指導や病害虫の情報を提供している。

■令和5年度は天窗にネットがないハウスでオオタバコガの食害が発生したため、6年度にフェロモン剤による農薬展示ほを設置し、防除効果を確認し、被害はほとんどなかった。

■令和4年度に種なしピーマン出荷組合が設立され、5年度には取り組む農家が1戸増加し、7戸となった。



種なしピーマン

今後の展開

■継続的に個別巡回指導を実施し、切り戻し栽培による安定生産と生産拡大を図っていく。

■現地では、オオタバコガの他、コナジラミ類やホコリダニ類の多発生が問題となっているため、IPMを考慮した防除体系を検討していく。